

# 7.24 「老朽原発・美浜3号うごかすな！ 現地全国集会」に300人

原発は、人類の手に負える装置でないことを、福島原発事故が大きな犠牲の上に教えました。また、ウクライナ紛争では、戦争になれば、原発は格好の攻撃目標になることが実証されました。

それでも、電力会社、政府などの原発推進派は、ウクライナ紛争によるエネルギー逼迫や炭酸ガス削減を口実にして、原発の稼働に躍起です。また、岸田首相は、冬向け電力の逼迫を喧伝し、9基の原発を稼働させる方針を発表しています。

しかし、電気は足りています。一時的な電力逼迫はあっても、節電によって回避できます。このことは今年3月の、地震と寒波に起因する東北、東京エリアでの電力不足、6月末から7月にかけての猛暑による電力不足を、節電で乗り越えた実績が証明しています。

したがって、人々に放射線被ばくを強いる原発を稼働させる必要は全くありません。とくに、圧力容器の脆化が進み、配管トラブル多発の蒸気発生器を持ち、原子炉空焚き過酷事故の危険性が高い、老朽原発・美浜3号機、高浜1, 2号機の再稼働などもっての外です。

なお、7月13日の東京地裁「東電株主代表訴訟」判決では、福島原発事故前の東電幹部の対応には「安全意識や責任感が根本的に欠如していた」と述べ、東電旧経営陣に、原発事故による損害・13兆円超の賠償を命じています。

今、関電経営陣が、多くの危険性指摘を無視して老朽原発を稼働するのは「安全意識や責任感の根本的欠」のためとしか言いようがありません、圧倒的な「老朽原発うごかすな！」の民意を蹂躪して老朽原発を稼働させ、重大事故に至った場合、それは関電経営陣の故意による犯罪です。許されるものではありません。

7月24日の「老朽原発・美浜3号うごかすな！ 現地全国集会」には、コロナ急増を乗り越え、猛暑にもめげず、約300人が大結集され、弁天崎（美浜原発を望む岬）集会→町内デモ→関電原子力事業本部前抗議・申入れ集会→町内デモを敢行しました。先の5.29「原発のない明日をー老朽原発このまま廃炉！ 大集会 in おおさかー」（2,100人結集）に引き続いて「老朽原発うごかすな！」の決意と怒りが噴出した行動でした。町内デモの途中、各所で美浜町の皆様のご声援を得ました。

美浜3号機再稼働全国から300人抗議 町内デモ  
原発のテロ対策を担う特定重大事故等対処施設（特重施設）建設のため停止している関西電力美浜原発3号機（美浜町）が、施設を完成させて8月上旬に運転再開するのを受け、市民団体「老朽原発うごかすな！ 実行委員会」は二十四日、町内で抗議活動を行い、運転再開の中止を訴えた。全国各地の原発反対団体から約二百人が参加。美浜原発から約二、三離れた同町菅浜の弁天崎で集会をした後、町中心部を移動し、デモ行進をした。町役場近くや関電原子力事業本部前を回り、美浜3号機うごかすな、「老朽原発このまま廃炉」と書かれた横断幕を掲げながら、「核のゴミを未来に押し付けるな」などとシュプレヒコールを上げた。美浜3号機は昨年六月、新規制基準下で、運転開始から四十年を超える原発として国内で初めて再稼働した。特重施設が設置期限までに完成しなかったため十月から停止していた。（栗田啓右）

2022年7月26日中日新聞（日刊県民福井）



弁天崎集会



町内デモ（第1梯団）

この集会には、福井、大阪、京都、滋賀から大型バスで駆け付けた皆さんをはじめ、地元若狭、兵庫、奈良、岐阜、愛知（名古屋地裁で老朽原発廃炉訴訟を闘う皆さんなど）、遠くは、東京など関東（老朽・東海第2原発廃炉を闘う皆さんなど）、愛媛、香川などの四国（伊方原発廃炉を闘う皆さんなど）のご参加を得、文字どおり「全国集会」となりました。（関電への申入れ文を裏面に紹介します。）

**ご参加、ご支援いただきました皆さん、ありがとうございました。**

**老朽原発・美浜3号機廃炉に向けてさらに前進しましょう！**

関電は、8月10日の美浜3号機再稼働を画策していると推測されます（確定ではありません）。それは、関電は8月9日を「安全の誓いの日」として、この日までの再稼働は避けようとする一方、8月12日「運転再開（並列）」を公表しているからです。なお、8月9日は、2004年のこの日（15時22分）に、美浜3号機の2次系配管（復水配管）が大破損し、約140度の熱水と蒸気が噴出して協力会社の5人が亡くなられ、6人が重症を負われた日です。

「安全を誓う」のであれば、「原発全廃」を宣言すべきです。とくに、次々に配管の減肉や損傷が発覚し、腐食によって数トンもの鉄さびや鉄イオンが発生し、ボロボロになった蒸気発生器を抱える加圧水型原発の再稼働など許されるものではありません。しかも、美浜3号機の蒸気発生器は、交換後26年を経た老朽装置です。

**「老朽原発うごかすな！ 実行委員会」は、老朽原発完全廃炉まで闘い続けます。皆様のご支援、ご参加をお願いします。**

**老朽原発完全廃炉を勝ち取り、それを突破口に原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現しましょう！**

2022年7月26日

老朽原発うごかすな！ 実行委員会  
連絡先・木原（090-1965-7102）

“老朽原発動かすな”  
美浜3号再稼働反対集会  
福井

関西電力が8月上旬にも狙う再稼働を許さない「老朽原発・美浜3号うごかすな！ 現地全国集会」が24日、福井県美浜町で開かれ、県内外から約300人が参加しました。実行委員会の主催。参加者は、美浜町内をデモ行進し、関西電力原子力事業本部前で「老朽原発動かすな」と、抗議の声を上げました。集会では、中野哲演明通寺住職が「再稼働直前の緊迫した現状と、過酷事故になれば関西圏1450万人の水がめである琵琶湖が汚染される危険を訴え、運動を盛り上げて再稼働をストップさせよう」と開会あいさつを行いました。オール福井反原発連

2022年7月25日しんぶん赤旗

絡会は14日、美浜3号機を運転再開させないことを杉本達治知事に求めるよう大森哲男県議会議長宛てに要請書を提出しました。会によれば、大森議長からは「昨年度に地元合意の結論が出ている。再稼働に際して知事の同意は必要ない」との回答があり、面会も拒否しています。

町内デモ（第2梯団）





2022年7月27日福井新聞

美浜3号再開  
中止求め集会  
原発周辺で反対団体  
県内外の反原発団体など  
でつくる「老朽原発うごか  
すな」実行委員会は24日、  
美浜町菅浜で関西電力美浜  
原発3号機の運転再開に反  
対する全国集会を開いた  
写真。  
美浜原発を望む海沿いに

約300人（主催者発表）  
が集まり、「反原発」など  
と書かれた旗や横断幕を掲  
げ、「このまま廃炉」「危  
険な老朽原発、動かすな」  
とシュプレヒコールを上げ  
た。  
この後、同町郷市の関電  
原子力事業本部周辺でデモ  
行進。関電側に美浜3号機  
の廃炉などを求める文書を  
提出した。（吉田拓弥）

## 関電への申し入れ書

関西電力株式会社 取締役会長 神原定征 様、  
取締役社長 森望 様、原子力事業本部長 松村孝夫  
様、美浜発電所長 高畠勇人 様

福島原発事故から11年が経ちましたが、今でも避難者の  
多くが故郷を失い、苦難の生活を続けておられます。事故  
炉内部の詳細は未だに不明で、増え続ける放射性汚染水は  
太平洋に垂れ流されようとしています。このように、福島  
原発事故は、原発は現在科学技術で制御できる装置でない  
ことを、大きな犠牲の上に教えています。

その原発が老朽化すれば、原子炉圧力容器の脆化や配管  
の損傷などが進み、過酷事故の危険度が急増することは多  
くが指摘するところです。

また、原発を動かせば、何万年もの保管を要する使用済  
み核燃料がたまりませんが、その永久保管はおろか、中間貯  
蔵すら引き受ける所ありません。

さらに、去る2月に始まったウクライナ紛争では、欧州  
最大の原発・ザポリージャ原発やチヨルノービリ原発が占  
領され、戦争になれば、原発は格好の攻撃目標になること  
が実証されました。原発はあってはならない施設なのです。

それでも、電力会社や政府は、ウクライナ紛争によるエ  
ネルギー逼迫に乗じて、また、炭酸ガス削減を口実にして、  
危険極まりない老朽原発の再稼働など、原発推進に躍起で  
す。

貴関西電力（関電と略）は、6月10日、10月に予定し  
ていた運転開始後45年を超えた老朽原発・美浜3号機の  
運転再開（並列）を8月12日に前倒しすると発表してい  
ます。

この美浜3号機は、昨年6月23日に一旦再稼働したも  
のの、特定重大事故等対処施設（特重施設）の設置が間に  
合わず、わずか3ヶ月間の営業運転で停止を余儀なくされ  
ていましたが、この短い運転期間中に二度もトラブルを発  
生させています。一つは、蒸気発生器中の2次冷却水が喪  
失したとき、緊急給水するポンプに大きな圧力がかかるト  
ラブルです。関電は、「ポンプ入り口にある金属製のフィル  
ターに鉄さびが詰まったことが原因」としています。老  
朽原発を全国に先駆けて動かそうとして準備してきたにも  
拘らず、鉄さびによる目詰まりにも気づかなかつた関電と  
原子力規制委員会のいい加減さは許されるものではありません。

一方、美浜3号機と同じ加圧水型原発・高浜3、4号  
機、大飯3、4号機でも、これらの原発は運転開始後40年  
に至っていないにも拘らず、たびたびトラブルが発生して  
います。例えば、高浜3号機では、定期点検中の本年3  
月、蒸気発生器の伝熱管3本の外側が削れて管厚が大幅に  
減肉・損傷していることが発覚しています。関電は、伝熱  
管外側に自然発生した鉄さびの塊がはがれて、伝熱管を削  
ったためとしています。この配管損傷によって、5月に予  
定していた再稼働は2ヶ月以上遅れました。同様な伝熱管  
損傷は、2020年11月および去る7月9日、高浜4号機  
でも発覚しています。これらの原発の蒸気発生器3基の中

には、腐食等によって、2トン以上もの鉄さびや鉄イオン  
が発生しているとも報道されています。

頻発するトラブルの中でも、約320℃、約160気圧の高  
温・高圧水が流れる1次冷却系配管（蒸気発生器伝熱管な  
ど）の損傷は、とくに深刻です。これらの配管が完全破断  
すれば、1次冷却水が噴出して、原子炉が空焚きになり、  
メルトダウンに至る可能性があるからです。そのため、蒸  
気発生器は「加圧水型原発のアキレス腱」といわれていま  
すが、美浜3号機の蒸気発生器は、取り替え後約26年を  
経た老朽機器で、配管の完全破断を起こしかねません。

原子炉空焚き過酷事故の危険性が高い、老朽原発・美浜  
3号機の運転はもってのほかです。

ところで、政府や自治体は、原発過酷事故を想定した避  
難訓練を行っています。それは、原発は過酷事故を起こし  
かねないことを、政府や自治体が認めているからです。た  
だし、政府や自治体が考えている避難訓練は、原発立地自  
治体住民のごく一部のみが参加する日帰り訓練です。政府  
や自治体は、原発過酷事故では、極めて多数の住民が、何  
年も、何十年も、あるいは永遠に故郷を奪われることをあ  
えて無視して、「避難訓練を行った」とするアリバイ作り  
をしているに過ぎません。このことは、昨年3月「避難計  
画やそれを実行する体制が整えられているというにはほど  
遠い状態」として、老朽・東海第2原発の運転差止を命じ  
た水戸地裁判決にも反映しています。

なお、美浜原発から100kmの圏内には、約76万人が住  
む福井県だけでなく、約250万人が住む京都府、約140万  
人が住む滋賀県のほぼ全域、大阪府、兵庫県、岐阜県、奈  
良県の多くの部分が含まれます。福島事故では、事故炉か  
ら約50km離れた飯館村が全村避難であったことを考え合  
わせれば、美浜原発で過酷事故が起こったとき、数百万人  
が避難対象となりかねません。避難は不可能です。30~80  
km圏内にある琵琶湖が放射性物質で汚染されれば、関西  
1450万人が飲料水を失います。

以上のように、原発は、トラブルが多発し、何万年もの  
未来にまで負の遺産となる使用済み核燃料を残し、一旦過  
酷事故を起こせば、事故終息は絶望的に困難で、多くの  
人々の故郷と生活基盤を奪い去り、戦争になれば、格好の  
攻撃目標になります。原発は、人類の手に負える装置では  
ありません。

このような視点に立って、私たちは、貴関西電力に、以  
下を申し入れます。

- 【1】危険極まりない老朽原発・美浜3号機の再稼働準備を  
即時中止し、廃炉を決定してください。
- 【2】原発を動かせば、行き場がなく、子々孫々にまで負の  
遺産となる使用済み核燃料が増加します。貴社の有す  
る全ての原発を停止し、安全な廃炉を進めてくださ  
い。

なお、7月13日の東京地裁「東京電力（東電）株主代表  
訴訟」判決では、福島原発事故前の東電幹部の対応には  
「安全意識や責任感が根本的に欠如していた」と述べ、東  
電旧経営陣に、原発事故によって東電に与えた損害・13兆  
円の賠償を命じています。

貴職らが、多くの危険性指摘を無視して老朽原発を稼働  
しようとしていることは「安全意識や責任感が根本的に欠  
如している」との批判を受けて当然であり、圧倒的な「老  
朽原発うごかすな！」の民意を蹂躪して老朽原発を稼働さ  
せ、重大事故が起こった場合、それは貴職らの故意による  
犯罪であり、許されるものではないことを申し添えます。

2022年7月24日

7.24「老朽原発・美浜3号うごかすな！現地全国集会」  
参加者一同

**老朽原発・美浜3号機完全廃炉  
を目指して、8月上旬の関西お  
よび現地での行動に総決起を！**